

7-4					
主題		夜間緊急時における介護職員の不安解消についての取り組み			
副題		実践研修で見た課題と改善			
キーワード 1	夜勤	キーワード 2	不安解消	研究(実践)期間	4ヶ月

法人名・事業所名	社福) ウエルガーデン 特別養護老人ホームウエルガーデン西が丘園
発表者(職種)	刈田研二(介護職員)
共同研究(実践)者	永里恵子(看護師)、吉木英俊(生活相談員)、福島美咲(生活相談員)

電 話	03-5924-7711	F A X	03-5924-7712
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	平成10年開設。定員100名の従来型の特別養護老人ホームです。夏には新緑、春には桜のトンネルなど四季折々を感じられる施設です。自然で安穏な・温もりのある・生きる喜びのある生活を大切に、地域にお住まいの方々、近隣のボランティアや高齢者の方々に開かれた施設運営に努めています。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

開設から19年がたち、ご利用者の平均要介護度が4.4以上となる中、介護業務における不安や負担等、様々な理由による退職があり、介護職員の勤続年数は短期化している。そのため、経験が浅い職員同士が夜勤を組む状況である。その中で、5名体制をとる当施設の夜勤では、重大事故の発生や急変に対する対応への不安が高まっている。5名のうち1名は「夜勤トップ」の役割を担うが、不安や抵抗感を示す職員も少なくなく、看護師や生活相談員からも「今日の夜勤は大丈夫だろうか」と心配する声もある。

平成28年度、行政への事故報告は11件。うち7件は夜勤帯で発生している。その他、夜間での終末期における呼吸停止が11件、剥離などの怪我、状態変化や救急対応等で看護師へオンコールする事が月平均3から4件あり。緊急対応を要する状況の発生は様々で、夜勤者の一番の不安要素と言える。

夜間緊急時の対応についてマニュアルは整備されているが、連絡をもらう看護師や生活相談員の指示が主導になるため、迅速な対応を懸念する状況であった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

夜間緊急時の対応の現状把握と問題の洗い出し、その解決を目的に以下の点を仮説とした。

- 1、マニュアルはあるが緊急時を想定して理解できていないのではないか
- 2、緊急時における動きを確認することで問題点の洗い出しや新たな発見ができるのではないか
- 3、夜勤職員のチーム力向上、不安解消につながるのではないか

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 夜勤を行う介護職員に夜間帯の不安や負担、緊急時対応についてのアンケートを行う
- ② アンケート結果をもとに、状態観察ポイントや救急対応の流れについて研修をする
- ③ 夜間緊急時対応を演習し、対応の流れ確認と問題の洗い出しを行う
- ④ 研修後にアンケートを行い、研修の効果を把握する

《4. 取り組みの結果》

- ① 夜勤時、「不安がある」と答えたのは32名中21名であった。その理由として9名が「急変時の対応」について挙げた。「緊急時の動きを理解している」と23名が答えたが、「緊急受診の付き添い対応」は23名が「分からない」と答えた。
その他、自由記載では「看護師に夜勤でいてほしい」との意見が数件挙がった。
- ② 事前アンケートを実施したことで、職員が求めていることについて具体的な研修を行い、問題解消に繋がった。観察ポイントについても見直し、より分かりやすく活用できるものに変更した。
- ③ 演習から職員が状況に応じた動きができないことが明確になった。夜勤トップを担う職員も対応の理解が曖昧であったり、演習でも緊張して指示出しがうまくできなかった。
看護師の保存するファイル、それぞれの管理している書類の扱いで違いがあることが分かり、受診付き添い時の混乱があることが分かった。
- ④ 研修後のアンケートにて、「観察項目や流を一緒に確認できた」「何ができないか分かった」等の意見がすべての職員から聞かれ、不安の解消に繋がったと言える。

《5. 考察、まとめ》

アンケート結果では自身の認識の中でも矛盾が生じる部分があり、演習でその問題が浮き彫りとなった。

緊急時では素早い対応が求められ、経験のある職員が率先してしまい、経験の浅い職員は取り残される状況が多い。定期的に演習や観察ポイントを確認することで、介護職員だけでなく、看護師や生活相談員が夜間緊急時に対する不安や負担の現状を把握し、解消できるのではないかと。また、共に考え共に実践することで一体感が生まれた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- ・いまさら聞けない高齢者の医学常識 三宅貴夫 日総研(2006年11月発行)
- ・高齢者福祉施設における看護業務ガイド 東京都社会福祉協議会(2008年7月発刊)

《8. 提案と発信》

ご利用者の重度化とニーズが高まる中で、判断や対応が難しい状況における介護職員の不安や負担を少しでも軽減できるよう、施設の環境や状況に合わせた研修の実施が必要ではないか。